

平成30年度

公立大学法人 業務実績評価書

令和元年8月

福岡県公立大学法人評価委員会

目 次

年度評価の考え方	-----	1 ページ
各法人の評価		
1 公立大学法人九州歯科大学		
(1) 全体評価	-----	3 ページ
(2) 項目別評価	-----	4 ページ
2 公立大学法人福岡女子大学		
(1) 全体評価	-----	9 ページ
(2) 項目別評価	-----	10 ページ
3 公立大学法人福岡県立大学		
(1) 全体評価	-----	15 ページ
(2) 項目別評価	-----	16 ページ

年度評価の考え方

1 項目別評価（中期目標項目別評価）

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書等を基に、業務の実績等について調査・分析を行う。

これらの調査・分析を踏まえ、中期目標の項目（教育、研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）ごとに、中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階で評価する。

- 5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
- 4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
- 3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
- 2：中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。
- 1：中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある。

2 全体評価

中期目標項目別評価を踏まえ、中期目標・中期計画の進捗状況全体の総合的な評価を記述式で記載する。

また、必要がある場合は、組織・業務運営等に係る改善すべき事項を記載する。

公立大学法人九州歯科大学

I 全体評価

公立大学法人九州歯科大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、新たなスタートを切った九州歯科大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

平成30年度の評価にあたっては、第2期中期目標期間内に取り組んだ諸改革や魅力ある大学づくりを一層進めるとともに、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中全て（教育、研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」と評定した。

また、九州歯科大学では、口腔保健・健康長寿推進センターにおいて、地域歯科医療関係者に対して、リカレント教育を行うとともに、地域の中核病院等との連携を強化し、包括的な地域歯科保健医療体制の構築を進めるなど着実に取り組んでいる。

以上のことを踏まえ、公立大学法人九州歯科大学の平成30年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

歯科医療の高度化・専門化や高齢化社会の進展等、多様化するニーズへの適切な対応が求められる中、公立大学としての役割を踏まえ、教育研究はもとより地域貢献の充実に向けた取組を一層推進し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、改善すべき項目も認められるが、全体的には年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

(1) 地域の歯科保健医療に貢献する実践的な歯科医師及び歯科衛生士の育成

- ・シラバスを組織的に検討し、学生の自学（予習と復習）を促す環境設定を行うなど、初年次教育の充実を図った。
- ・モデル・コア・カリキュラムと講義内容の相関性を検証するとともに、ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに整合したカリキュラムマップの作成や国内初となるデジタル歯科シミュレータの臨床教育への導入など、特色ある教育を展開している。
- ・平成30年度の歯科医師国家試験合格率が全国29大学中16位と低下（平成29年度5位）しており、合格率の高水準への回復に向け、原因分析と対策に取り組む必要がある。

(2) 特色ある大学院教育による優れた歯科医療人の育成

- ・受験生が理解しやすい学生募集要項等を整備するとともに、学力と研究意欲を問う筆記試験問題の作成やアドミッションポリシーに基づく評価票を用いた面接の実施など、より適正な入学選抜体制の構築を図った。
- ・初年次研究研修プログラムを改編するとともに、国際学会等での知識や発表技術の向上のため、大学院特別講義の一環として、Asia-Pacific Conference への参加を取り入れるなど、大学院教育の充実を図っている。

(3) 教職員の教育力向上

- ・ファカルティ・ディベロップメント部会を中心に、初年次教育、医科歯科連携教育への取組等に関する講演やワークショップを実施するとともに、教育の質の向上に向けて、学生食堂へのラーニング・コモنزの設置や、図書館へのラーニング・コモنز開設に向けた検討を進めるなど、教育活動の改善を図っている。

(4) 意欲のある優秀な人材の確保

- ・模擬講義や大学施設説明会の実施などの高大連携に取り組むとともに、オープンキャンパス、高校訪問、進学就職説明会等の入試広報活動を積極的に実施するなど、優れた資質や高い意欲を持った人材の確保を図っている。

(5) 学生の学修及び生活支援

- ・学生相談等に迅速に対応するための体制強化を図るとともに、保護者面談会の開催や留学生の住宅確保の支援など、きめ細かな学生支援を行っている。

(6) キャリア支援

- ・就職支援実施会議での組織的な対応により、希望職場への就職活動を支援するとともに、民間企業や総合病院等への就職を開拓し、口腔保健学科において、引き続き就職率100%を達成した。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・地域の中核病院との医科歯科連携協定等を活用し、地域包括ケアシステムに対応できる歯科保健医療体制の構築に資する研究を展開している。
- ・科学研究費補助金の応募数、獲得数ともに目標を上回るなど、外部研究資金獲得を積極的に進めている。

3 地域貢献及び国際交流

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「口腔保健・健康長寿推進センター」において、歯科医師等を対象とした摂食嚥下障がい等に関する実践的教育を実施するとともに、附属病院に「地域包括歯科医療センター」を設置するなど、地域のニーズに対応した歯科医療の充実を図っている。
- ・地域の中核病院や社会福祉施設等との連携を強化し、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制の充実を加速化するとともに、歯科検診受診率向上に向けて、地域の経済団体との連携の充実を図っている。
- ・海外学生短期派遣プログラムを正規の選択科目として実施し、海外大学に学生を派遣するとともに、大学院歯学研究科博士課程に複数の大学から留学生が入学するなど、海外大学との交流を推進している。
- ・「Asia-Pacific Conference in Fukuoka 2018」を開催し、ミャンマー及び東南アジアの歯学教育及び歯科保健活動に関する学術交流を展開するとともに、交流協定締結校から教員を受け入れ、口腔保健・健康長寿推進センターにおいて短期研修を実施した。

4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・I R室で履修データを整理し、学生指導や国家試験対応に向けて組織的に検証を行うとともに、学長裁量経費を確保するなど、戦略的な大学運営に取り組んでいる。
- ・臨床教育資料の充実のため、総合診療系カンファレンスデータのアーカイブ化を実施するとともに、包括歯科診療の拡充や多職種連携の推進に向けた体制整備を図った。

5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげている。

6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・内部質保証体制の充実のため、新たな組織の設置を検討するなど、大学運営の改善に向けた取組を行っている。
- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開している。

公立大学法人福岡女子大学

I 全体評価

公立大学法人福岡女子大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、新たなスタートを切った福岡女子大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

平成30年度の評価にあたっては、第2期中期目標期間内に取り組んだ諸改革や魅力ある大学づくりを一層進めるとともに、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中2項目（教育、地域貢献及び国際交流）について「特筆すべき進捗状況にある」、4項目（研究、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」と評定した。

また、福岡女子大学では、クォーター制の導入や、海外有力大学への学生派遣や外国人留学生の受入れ、国内外での体験学習の充実等、特色ある教育に積極的に取り組むとともに、女性のキャリア形成のための教育プログラム等を実施するなど着実に取り組んでいる。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡女子大学の平成30年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

福岡女子大学は、令和5年の創立100周年を見据えて、社会から高く評価される大学づくりに向けた改革に全力で取り組んでいる。引き続き、国際的な感性を持ち、主体的に活躍できる女性の育成を目指し、実効性の高い改革を進められることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

教育については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を大幅に上回る取組や中期計画に掲げられる事項以外にも教育に関する積極的な取組が認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

(1) 学士課程

- ・全学一斉にクォーター制を導入するとともに、学生や教職員の意見を取り入れ、クォーター制の課題やメリットを踏まえた改善に取り組むなど、教育の充実を図っていることを評価する。
- ・体験を通じた学びの体系化や体験学習プログラムのガイドライン作成を行うとともに、海外インターンシッププログラムを実施するなど、実践的能力を養成する体験学習の充実を図っている。
- ・海外から多くの優秀な留学生を受け入れるなど、国際性豊かな学習環境の充実に積極的に取り組むとともに、交換留学、語学研修、体験学習等の海外派遣学生数が目標を大きく上回ったことを評価する。
- ・「国際学友寮 なでしこ」での寮活動に寮教育部会の委員が参加し、学生の主体的な寮運営を支援した。
- ・豊かな人間性を養う感性教育への取組として、新たな科目「感性を学ぶ」を開講した。
- ・食・健康学科において、実験・実習機器等を充実させるなど、専門教育の更なる向上を図るとともに、管理栄養士国家試験の合格率が外国人留学生を含めて100%となったことを評価する。
- ・学生と教職員の交流の推進及び教育研究等の連携を図るため、奈良女子大学と包括交流協定を締結した。

(2) 大学院課程

- ・人文社会科学研究科及び人間環境科学研究科における教育研究の充実に取り組み、高度な専門的知識の獲得や独創的研究能力の向上を図っている。また、国内外での学外学修プログラムを実施した。

(3) 教育活動の活性化

- ・ファカルティ・ディベロップメントに係る年間の研修計画を立て、計画的に実施するとともに、教育制度の改善に向けたワークショップに取り組むなど、教育活動の活性化に努めている。

(4) 意欲ある学生の確保

- ・志願者の利便性向上のため、インターネット出願システムを改修するとともに、オープンキャンパス、高校訪問等の入試広報活動に積極的に取り組み、国内外の多様な学生の確保を図っている。また、海外の交流協定高校から、初めて入学者を受け入れた。

(5) 学修支援・学生生活支援

- ・学修ポートフォリオの積極的活用を促すなど、主体的学修支援の充実を図るとともに、学生相談や健康管理へのサポートを教職協働で進め、ハラスメントフリーに向けた体制の整備を行っている。

(6) キャリア形成の支援

- ・企業訪問による就職先の開拓や、企業説明会、就職対策講座、個別指導等を実施し、新規卒業生全体の就職率が高水準を維持している。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡」の枠組みの下、国際的な研究者ネットワークを構築するとともに、共同研究を実施し、科学研究費の獲得に繋げた。また、企業等と包括連携協定を締結し、教育・研究交流を積極的に展開している。
- ・科学研究費補助金の申請件数、獲得件数ともに目標を上回っており、外部研究資金の獲得に努めている。

3 地域貢献及び国際交流

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を大幅に上回る取組が多く認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「女性トップリーダー育成研修」や「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」等の女性のキャリアアップ支援のための実践的教育プログラムの実施や、2つのプログラム修了者同士を繋ぐ「女性リーダーネットワークシンポジウム」の開催を評価する。
- ・ノーベル賞受賞者講演会や出前講座等の小中高との教育連携の推進や参加型生涯教育授業「生涯学習カレッジ」の開講、福岡女子大学美術館や図書館を活用した企画展の開催など、大学の知的資源を地域に還元している。
- ・「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡」による国際共同研究や国際教育プログラムを推進し、学生及び教員の包括的学術交流が活性化するとともに、海外大学の日本語教育実習プログラムに若手研究者を派遣した。
- ・新たな海外5大学との学生交流協定の締結や学生及び教職員の国際シンポジウム等への派遣など、海外大学との交流の充実を図るとともに、短期受入留学生数が目標を大きく上回っている。
- ・留学説明会や留学経験者による相談会等、在校生の海外志向を高める取組を実施するとともに、危機管理体制を強化し、目標を大きく上回る学生の海外派遣につながったことを評価する。

4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・評価の客観性を高める教員個人業績評価制度の導入に向けたロードマップを策定するとともに、新たな業績評価制度と関係づけて、テニユア（終身雇用）やサバティカル（長期休暇）についての制度の導入に向けた検討を進めている。
- ・教職員の多様な視点によるユニークな提案を募集する「教育活動活性化提案事業」を実施した。

5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげている。

6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開するとともに、学生の提案により、ホームページに在学生や卒業生を紹介するサイトを構築し、高校生が大学生活をイメージしやすい情報を公開した。
- ・「100周年記念事業推進会発足式」を開催し、創立100周年記念事業を学内外の協力・支援の下推進する体制を構築した。

公立大学法人福岡県立大学

I 全体評価

公立大学法人福岡県立大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、新たなスタートを切った福岡県立大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

平成30年度の評価にあたっては、第2期中期目標期間内に取り組んだ諸改革や魅力ある大学づくりを一層進めるとともに、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中全て（教育、研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」と評定した。

また、福岡県立大学では、全学横断型教育プログラムの充実を図るとともに、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談・支援事業、学習ボランティアの派遣等、地域貢献活動を積極的に実施するなど着実に取り組んでいる。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の平成30年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

福岡県立大学は、これまでに地域と連携した取組で一定の成果をあげている。

引き続き、地域貢献活動等に積極的に取り組むとともに、大学の理念の実現を目指し、教育研究をはじめとした業務の充実に向けた取組を更に推進し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成
 - ・学生のニーズや成長課題を踏まえ、全学横断型教育プログラムの充実を図るとともに、包括的な専門教育プログラムの導入に向けた検討を行うなど、特色ある体系的な教育課程の編成に取り組んでいる。
 - ・導入教育科目として、新たに2科目を開講するとともに、教養演習の教科書の改訂や習熟度に応じた語学教育を実施するなど、教養教育の充実を図っている。
 - ・人間社会学部において、公認心理師受験資格に係る新カリキュラムを開始するとともに、保育士養成課程の改正に合わせたカリキュラムの見直しを行っている。
 - ・看護学部において、従来の領域の枠を越えたワーキンググループを立ち上げ、看護実践力強化に向けた検討を行うとともに、「ケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアム」の構成大学を中心に、オンデマンドでの講義の相互受講を図っている。
 - ・保健師、社会福祉士、精神保健福祉士等の各種国家試験合格率が、高水準を維持している。
- (2) 高度専門職業人の人材育成
 - ・大学院生を対象としたアンケート調査や座談会の実施により、学生の意見を積極的に取り入れ、シラバスの様式を全面改訂するなど、大学院教育の充実を図っている。
- (3) 教育活動の活性化
 - ・教員を対象としたセミナーや授業参観ウィークの実施等、ファカルティ・ディベロップメントの推進を図るとともに、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の充実に向けた検討を行うなど、教育活動の活性化に努めている。

- (4) アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保
 - ・志願者の利便性の向上に向けて、インターネット出願への移行準備を進めるとともに、オープンキャンパスの開催や入試説明会への参加、高校訪問等、入試広報活動に積極的に取り組み、志願倍率が高水準を維持している。
- (5) 学生の学修支援と生活支援
 - ・学生の自主的学修を促すための図書館セミナーの開催や、GPAを活用した個別の学習支援、留学生等多様な学生への支援体制に関するニーズ調査の実施など、学生の学修・生活支援の充実に努めている。
- (6) キャリア支援
 - ・系統的キャリア形成支援講座やインターンシップ・プログラム等を実施するとともに、教職協働体制を構築し、就職ガイダンス等を実施するなど、きめ細かなキャリア形成支援に取り組み、就職率が高水準を維持している。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ヘルスプロモーション実践研究センターと生涯福祉研究センターの既存事業を見直し、研究機能を促進する事業へと転換を図るなど、附属研究所における研究機能の強化を図っている。
- ・科学研究費補助金等の応募件数、獲得件数ともに目標を上回っており、外部研究資金の獲得に努めている。

3 地域貢献及び国際交流

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター等において、資格・免許保持者等を対象に、専門分野を深めるためのリカレント教育や研修の実施に努めている。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて、相談件数が5,000件となり、大幅に増加するとともに、キャンパス・スクール事業における登校開始率が過去最高を達成するなど、不登校・ひきこもり対策を積極的に行っていることや、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」において、地域の補充学習の場に学生を学習ボランティアとして派遣した回数が前年を上回るなど、学生の社会貢献・ボランティア活動を積極的に支援していることを評価する。
- ・交流協定締結校との教員交流や学生の短期研修プログラム（派遣）の実施など、国際交流の推進を図るとともに、留学生（派遣・受入）数が目標を上回っている。

4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・附属研究所長に生涯福祉研究センター等の予算管理権限を付与し、各センターの事業計画等に基づき、適切に予算を配分するなど、自主的な大学運営に努めている。
- ・事務局機能の強化に向けて、外部研修会への職員派遣や大学改革セミナーを実施するとともに、プロパー職員の人事評価制度を試行的に導入した。

5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得に努めている。

6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開するとともに、高校訪問、入試説明会等の機会を通じて、大学の情報を広く発信している。